



定期刊行 毎月10日
 1部 8円
 発行人 瀬成田 寛 表部
 編集責任 橋 寛
 〒981-8545
 仙台市青葉区柏木一丁目2-45
 宮城県教職員組合
 電話 (234) 0141. 4161
 FAX (274) 2130
 E-mail miyakycsc@mtu.or.jp

号 外

分会長・学校長様 至急回覧を
 多忙解消に係る県教委との協議 二枚組
 2015年2月25日(水)発行:宮教組

宮教組、多忙化解消を強く要求!

県教委「初任研文書は少しずつ直し分量を減らせるよう検討」

これまでの成果「調査30/140削減。会議5/66減」

2/19多忙解消に係る県教委との協議速報

宮教組は、2月19日、県教委と多忙解消に向けた協議を行い、改善が遅々として進まない現状に対する県教委の認識を質しました。宮教組は、現場の実態に即した具体の対策を示すよう要求するとともに、継続した協議の場をもつことを確認しました。

今後も折衝を続け、早期に多忙化解消が実現するよう運動を強めていきます。

部活動の休養日の徹底と、会議・出張の精選、報告文書の縮減を!

- 1、特別支援学級の年間計画の提出時期を遅らせること。
- 2、事務量の軽減～要録の電子化、コピーへの押印不要通知を出すこと。
志シートの廃止、体力テストの目標取り組み記載をなくすこと。
- 3、初任研の軽減～宿泊研を1泊に、提出書類の軽減を。
- 4、授業分担の推進、余剰時数の活用
- 5、指導主事訪問の軽減
- 6、いじめ対策のための計画作成による多忙化を防止すること。
- 7、学力テストの廃止を。



宮教組執行委部



県教委教職員課長ら

“多忙化”必至! 不登校対策マニュアルの中止を求める!

県教委が同日の2月19日付けで画一的な指導を現場に下ろす

県教委が同日の2月19日付けで画一的な指導を現場に求める“マニュアル”の依頼を現場に下ろしたことが明らかになりました。多忙交渉で県教委は「強制ではない。参考例として活用してほしい」と説明しましたが、マニュアルどおりの指導を行えば新たな多忙化を生むことは必至です。

宮教組はすぐに義務教育課と折衝を行い以下の確認しました。

「申し送り個票の年間15日以上欠席は一例」

「使う使わないも学校の判断」

「通知ではなく依頼としている。」

【中1不登校にさせない初期対応 未然防止の取組】

(県教委)概要

- ◆欠席1日目～すぐに電話。2日目～電話連絡もしくは手紙を書く。3日目～支援チーム結成。チーム会議開催。連続7日目～不登校対策委員会の開催。個人ファイル作成。申し送り個票等数枚。
- ◆4回もの小中連携の強化。

多忙解消のためにー県教委の主な回答

(■：県教委の回答、●：宮教組の考えと今後の取り組み)

不登校対応への取組について

- ※県教委は、3月中旬、不登校対応に特化した「不登校対応マニュアル」および「個別の指導記録シート」の送付を予定しています。
- ※ケース会議や事務量のさらなる増加を招くとともに、記録のための子ども対応に陥ることが懸念されます。
- 「リーフレットとして提供していく。」「改めて使用する必要はない。」「すでにある場合はそれでいい。」「
- 近年最悪の通知です。すでに各校で何らかの対応がとられている現状では、「蛇足」としか言いようがありません。単なる情報提供としてのリーフレットですから、参考にすれば十分です。

部活動の休養日について

- 「『7者提言』のときも、部活は毎日続けても効率が悪いこと、休みが必要という通知を出している。」「(このことは)校長会でも話している。」
- 通知の発出で県教委の責任が全うされることにはなりません。今後も、改善の推進にこそ責任を果たすよう求めています。

特別支援指導計画の提出時期について

- 「具体の事情を聞かせてほしい。」「既存の指導計画への『朱書き』も可としている。」
- 新規に作成や初めて担任となる場合に、およそ1ヵ月で年間を見通した個別の指導計画を作成することは困難です。今後もその改善を求めています。

学力向上について

- 「県学力テストの自己採点は、可能なところではやってほしい。」
- 全国学力テストおよび県学テは、平均点競争に陥っています。中止を求めています。

多忙の現実と向き合って改善していくことが重要。教職員課長が述べた「多忙感」という生ぬるい実態ではない。多忙解消は、喫緊、必須の対策。

「志」シートについて

- 「強制はしていない。」
- 使用の義務はありません。

教職員の配置について

- 「復興支援予算として、スクールカウンセラー、支援員等の配置を進めていく。」
- 国へ予算措置の増額を求めることは当然のこととし、県単独の予算措置による加配の推進を求めています。

事務処理の軽減について

- 「(卒業時、要録への写しの押印が不要なことを) 問合せがあれば、答えている。」
- 無責任な姿勢を改めさせ、通知により周知させること、各種会議で伝えるよう求めています。

初任研の軽減について

- 「この機会に少しずつ直していきたい。」「分量(枚数)を減らせるよう検討している。」
- 子どもと向き合う時間の確保こそが初任者には大切です。初任者を心身ともに疲弊させる最大の原因になっている初任研の大胆な縮減を求めています。

教頭・教務の専科授業の推進について

- 「進んでいる事例を出して話をしていきたい。」
- 事務量の縮減と作業時間の確保、教頭・教務の専門性を生かした指導の多様化の観点から、全県隅々で実現するよう求めています。



強く迫る瀬成田委員長